

令和7年度 秋期 システム監査技術者試験 出題趣旨

午後Ⅱ試験

問1

出題趣旨

事業戦略の一環として、未経験の開発手法や新技術を用いた大規模システムや多国間で機微情報を共有する情報システムなどを導入する場合、その導入に伴う新たなリスク（以下、特有のリスクという）が生じる可能性がある。当該情報システムを導入するに当たっては、特有のリスクを特定して評価するだけではなく、対応策によってそのリスクの大きさをリスク許容範囲内まで低減できる必要がある。

本問では、システム監査人として、情報システム導入の決定過程において、当該情報システム特有のリスクの特定及び評価が適切に実施され、対応策によってそのリスクの大きさがリスク許容範囲内まで低減できることが適切に評価されているかどうかを確かめるための監査手続を設定できる知識・能力を評価する。

問2

出題趣旨

昨今、大規模自然災害などの発生を想定した情報システムの業務継続計画（以下、IT-BCPという）では、災害による被害の様相が異なっても可能な限り柔軟なIT-BCPを策定できるように、原因事象からリスクを抽出するだけでなく、災害が発生した場合の結果の事象からもリスクを把握・分析し、評価することで、IT-BCPを策定し、適時に見直すことが求められるようになってきた。

本問では、大規模自然災害などの発生を想定したIT-BCPについて、事業継続計画と整合性が取れたIT-BCPが策定されていることを確かめる監査の着眼点、及びIT-BCPの実効性が確保されているかどうかを確かめるための監査手続を設定できる知識・能力を評価する。